「持続可能な未来都市 高岡」の実現を目指して

わたしたちにもできるSDGs

TAKAOKA SDGs

問企画課 TEL 20−1101 FAX 20−1670

SDGsは、2015年の国連総会で採択された、2030年を達成期限とする17の目標と具体的なターゲットのことで、経済・社会・環境の3つの側面を統合的に発展させて、「誰一人取り残さない」世界を目指しています。

高岡が変われば世界も変わる

高岡をより良くするための取り組みは、SDGsの達成にも繋がります。一人ひとりの取り組みは小さくても、皆さんの取り組みが積み重なれば、地域をよりよくする大きな力となります。2030年を期限としたSDGsも今年の7月に折り返しを迎え、後半戦に入りました。SDGsの取り組みを通じ、「持続可能な未来都市 高岡」の実現を目指しましょう。

今月は、自分たちのまちの未来を自らの手で創る活動をされている、市内の皆さんの取り組みを紹介します。

未来を変えるために、自ら行動すること

◆高岡南高校3年
中村悠新さん
高瀬愛裕美さん
宮腰侑来さん
関敬美さん

高校生がSDGs達成に向けた課題解決策を提案する全国大会で、車中心社会における環境問題と高齢化に着目し、水素から発生させた電気でシニア向けコミュニティバスを運行する解決策を発表し、優秀賞を受賞しました。また、このアイデアを基に、地元ベンチャー企業と連携し、廃アルミから発生させた水素で作った電気を利用して軽音楽のライブも開催しました。当日は発電の仕組みを紹介し、皆さんに関心を持って聞いていただくことができました。

【宮腰さん】

当初、SDGsは難しいイメージがありましたが、今回の経験からSDGsの活動は私自身の生活や未来につながっていることに気づきました。SDGs以外にも、自分の将来に役立つことが世の中にはいっぱいあって、そういうことから目をそらさず、知見を広げていくことで、少しでも自分の周りの人に何か還元できればいいなって思います。

【関さん】

今回のライブは、地域の皆さんに環境問題に興味を持つきっかけにしてもらうために開催しましたが、私たちが思う大切なこと、伝えたいことを地域の人や地元の小中学生に知らせていくといったことが、私たちにできることなのではないかと思います。例えば御旅屋通りとか、かっこいい高岡大仏も。高岡にあるすてきな文化をもっといろんな人が知って、みんなで守っていけたらいいなと思います。

【中村さん】

今回の活動を通して、もっといろいろな世界を調べてみたいと思いました。私は小さい頃から、環境に対する関心があり、ポジティブな面もネガティブな面も含めて、世界が今どういう状況にあるのかを積極的に知っていきたいと思っています。

【高瀬さん】

私たちが今回経験したような地元での楽しい思い出があれば、若い人たちにも将来、就職や家庭を持つときに子供たちにも経験させたいなって思ってもらえると思います。私自身、地元に感じるあたたかさがとても好きで、若い人たちがなぜ地元に帰ってこないのかが不思議に思うくらい(笑)。若い世代へのアプローチや、どうしたらまた戻ってきてもらえるかを、同じ世代の私たちが考えていくことも必要ではないかと思っています。

地元小学校と連携して回収したアルミ缶を運ぶ4人

デジタルでつなぐ地域の絆

◆開発本町自治会　林（はやし）　省次（しょうじ）さん
（前自治会長、現相談役）

電子回覧板アプリの「結ネット」を昨年から導入しています。これまで回覧板で案内していた情報をスマートフォンやタブレットで確認できるほか、獅子舞や農園の植え付けなどの町内のニュースが、写真や動画と一緒に見ることができます。現在は、町民の約8割の方に利用いただいており、家族だけでなく、町内の皆さんで共通の話題を持つことができるようになったと好評をいただいています。

7月12日には市内全域で大雨となり、開発本町も被害を受けました。床上浸水した家もありましたが、復旧作業に多くの町民が応援に駆け付け、住民同士がつながる大切さを改めて感じています。幸いにも人的被害はありませんでしたが、大きな災害がいつ発生してもおかしくありません。今後は、結ネットを使った安否確認訓練など「共助」の取り組みを進めながら、地域の絆をより深めていきたいです。

農業は最強の『のびしろ』

◆clover farm　代表　青沼（あおぬま）　光（あきら）さん

人も牛も幸せになれる社会を目指し活動しています。たかおかSDGsパートナーとして、酪農を通じて地域課題の解決に貢献していきたいと考えています。これまでも工場で出た野菜くずを餌として使ってきましたが、今年は、牛のふんを肥料にして、地域の農地で活用いただく取り組みにもチャレンジしています。輸入に頼っている餌や肥料を、地域内で生産・消費することで、経済のサイクルを地域で回せるし、環境にもよい効果を期待しています。

高岡にとって、農業は最強の「のびしろ」だと思います。中心となるまちがあり、周囲には農地、海などの自然環境があることは、まちに食を供給する構造としては最適で、農業のなり手が不足しているなんてもったいないと感じています。

わたしたちの生活から切り離すことのできない「食」から、地域の持続可能性を考えることを通じて、農業を起点としたまちづくりを、多くの人に伝えていきたいです。

交流と挑戦のプラットフォームに

◆高岡まちなかスタートアップ支援施設「TASU」
コーディネーター　山本（やまもと）　保（たもつ）さん

今年3月に御旅屋セリオ4階にオープンした、起業・創業を志す方に無料で相談を行うスタートアップ支援施設「TASU」でコーディネーターとして働いています。

相談者一人一人と真摯に向き合って伴走支援していくことはもちろんですが、すでに起業されている経営者や地元企業ともつながりをつくり、コミュニティを構築することで地域全体を活性化させるべく活動しています。

最近では、商品開発を段階的に支援するため、参加者がアイデアに意見を出し合う「ゼロイチ会」やさらなるブラッシュアップを図る商品アイデア発表会を開催しました。

起業者支援を通じて、高岡で仕事をするきっかけや機会を増やし、高岡市の賑わいを創出していきたいです。今後は、地元の学生との共同イベント等を通して接点を持ち、若い人への啓発にも取り組んでいきたいと考えています。

たかおかSDGsパートナーを募集しています

SDGsを通じて高岡の地域課題解決に向け、連携して取り組んでいただける企業・団体などを募集しています。登録要件や申請方法など、詳細は市ホームページをご覧ください。

市HP

募集中！

たかおかSDGsパートナー

出前講座を行っています

市の職員が自治会や各種団体にお伺いし、SDGsについて講座を行います。

▼市ホームページや出前講座パンフレットをご覧いただき、お申し込みください。

▼企業などを対象に、社会課題をビジネスの力や自らの行動で解決する考え方を学ぶカードゲームを活用したワークショップなども開催できますので、ご相談ください。

市HP

ものづくりのまち高岡が届けるクラフトの祭典。

TAKAOKA

工芸都市 高岡の秋。2023

●映える食べ歩きメニュー「味趣（みしゅ）の乱」

山町筋の飲食店6店が市場街の3日間限定で新メニューを開発。さらに写真をSNSにあげるとオリジナルグッズのプレゼントもあります。

●高岡で澄む

市場街期間中「高岡で澄む」と題し、1970西繊ビルをはじめ市内3ヶ所（予定）において、若手作家による作品展を開催。会場では高岡にゆかりのある作家たちとも出会えます。

素のものワークショップ

高岡にゆかりのある工芸作家や職人が講師となり、素材の魅力に触れるものづくり体験教室を開催します。

と　き　9月16日(土)・17日(日)
ところ　デザイン・工芸センター工房
申込・問合先　デザイン・工芸センター
TEL 62−0520

デザイン工芸センターHP

①銅のフライパン（講師：池田晴美）

銅板を金槌で叩いて、フライパンを作ります。

参加費　12,000円

②土かまど（講師：寺西一貴）

土を突き固め壁を作る「版築（はんちく）」技法で、土かまどを作ります。

参加費　1合炊き10,000円　2合炊き15,000円

※事前申込優先です。開催時間や定員などは内容によって異なります。詳細はデザイン・工芸センターホームページをご覧ください。

赤レンガの建物一般公開

赤レンガの建物に関する模型や番組などを1階旧営業室で展示します。建物内部は展示スペースのみ公開します。

と　き　9月16日(土)
午前10時〜午後4時
ところ　高岡市守山町22(山町筋)
問合先　未来課　TEL 20−1320

市場街（いちばまち）2023

高岡のまちで、クラフトやアートに出会って、触れて、体験できる3日間

高岡のものづくりを支える職人やクラフト作家が主役となり、クラフトやまちの魅力を発信する秋の恒例イベント「市場街」。伝統産業職人や作家によるアートやクラフトの展示・販売、ワークショップなどのほか、飲食店の出店もあり、地元のグルメを楽しむことができます。

また、今年は4年ぶりとなる山町筋での歩行者天国を16日(土)・17日(日)午前10時〜午後5時で開催予定です。

と　き　9月16日(土)〜18日(月・祝)
ところ　山町筋、御旅屋通りほか
問合先　高岡クラフト市場街実行委員会
E-mail ichibamachi@gmail.com
文化振興課　TEL 20−1255

市場街HP　市場街TV You Tube

●「ものの市」

山町筋では歩行者天国で行うマルシェ「ものの市」を開催。ものづくりを体験できるワークショップが盛りだくさん。オリジナルの一品が作れます。

●オープンファクトリー

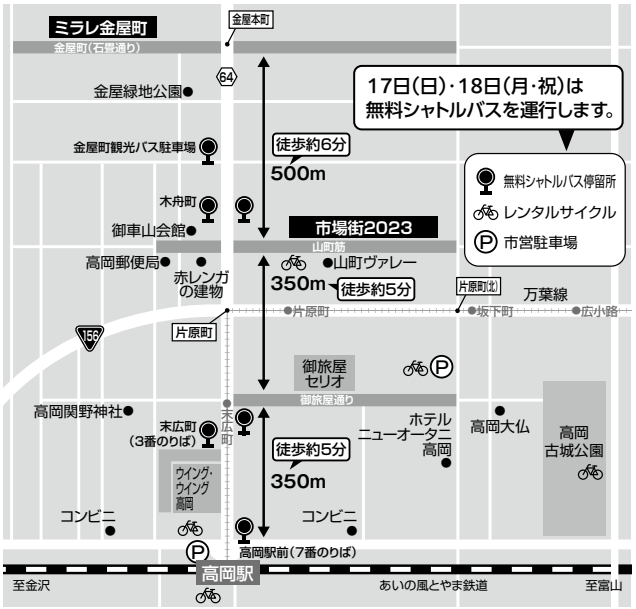
普段はなかなか入ることができない工場や工房を、誰でも見学できるオープンファクトリーを実施。いろいろな工場を見て高岡のものづくりを体感できます。

開催スケジュール

9月16日(土)	17日(日)	18日(月・祝)
	ミラレ金屋町	
	市場街 2023	
	山町筋歩行者天国	

※デザイン工芸センターでの「素のものワークショップ」は16日(土)・17日(日)開催

全体のスケジュールはこうじゃ！



11月開催

工芸都市高岡 2023 クラフト展

全国の作家の技の粋が集結
今年の公募テーマは「とびこえる」

工芸都市高岡クラフトコンペティションで金属、漆、ガラス、陶磁器、家具など、様々な分野の応募作品から選出された今年度の入賞・入選作品を展示します。

と　き　11月3日(金・祝)～5日(日)
ところ　御旅屋セリオ2階特設会場
問合先　工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会
TEL 23−5002
産業企画課 TEL 20−1395

クラフト展HP

ミラレ金屋町

千本格子の町家が軒を連ねる高岡鋳物発祥の地
「金屋町」のリアルを体感してミラレ

金屋町の町家や石畳通りを巡り、まちの歴史と生活に触れるガイドツアーやスタンプラリー、作家や職人直伝のさまざまな体験型ワークショップ、お茶会、町家や軒先を彩る工芸品の展示・販売に加え、新たな着物ファッションショーなど、金屋町の魅力をまるごと見て、知って、体験できる2日間。

と　き　9月17日(日)・18日(月・祝) 午前10時～午後5時
ところ　金屋町石畳通り周辺
問合先　ミラレ金屋町実行委員会(商業雇用課内)
TEL 20−1289

ミラレ金屋町HP

◆着物ファッションショー
「甘味処かなや」をテーマに、和洋のお菓子を着物で美味しく表現します。ショーの後は甘いものが食べたくなるかも。

◆町並みと暮らしのギャラリー
金屋町ゆかりの作家の作品をご覧いただきながら、町家の魅力や暮らしぶりを体感できます。屋外では県内外の工芸作家による展示・販売が行われます。

◆ガイドツアー＆スタンプラリー
歴史ある町家や石畳通りで、地元住民や富山大学芸術文化学部の学生が、趣向を凝らしたおもてなしを行います。

◆多彩なワークショップ
鋳物師の町、金屋町にさまざまなワークショップが集結します。作家や職人からの直接指導により、自分好みのオリジナル作品が作れます。

©Fujiko-Pro

こども まんなか　市は「こどもまんなか応援サポーター」を宣言しており、今月号は「こどもたち」にスポットをあてています。

ひとりでお買い物できたよ♪　7月16日

あぐりっち佐野店で、JA高岡による「はじめてのおつかい」体験が4年ぶりに実施され、つくし保育園の年中児とその保護者15組が参加しました。園児たちは、保護者に頼まれたお買い物リストをもって一人での買い物に挑戦しました。参加した渋谷恵菜ちゃんは「楽しかった。またやってみたい」と笑顔で話しました。

たくさん採れたよ　7月29日

枝豆やとうもろこしを収穫する夏の収穫体験ツアーが(有)中山農産や(農)横越下集落営農組合で行われ、約20人が参加しました。参加した小学４年生の湯口瑛太君は、「とうもろこしと枝豆がたくさんとれて楽しかった。家でおいしく食べたい」と話し、夏休みの楽しい思い出になったようです。

故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

高岡の孝子／石瀬屋六兵衛(1755～89)

「孝子六兵衛」こと石瀬屋六兵衛は高岡を代表する孝行者です。六兵衛は一番新町の生まれで初名は弥三。生来大変な孝行者で正直・謙虚でした。父を早くに亡くし、幼時より米運びなどで家計を支えました。母は大変な酒飲みで酔うと人を罵り、地面を響かせて暴れるので「動地婆」とあだ名されました。六兵衛は稼ぎを全て母に渡し、罵られても逆らわず心から従いました。千保川の洪水で町が水没した時には酒を飲みたいという母のために、泳いで橋番町に酒を買いにいきました。そんな六兵衛の孝心は隣町まで広まり、皆感化されたといいます。

ある時、六兵衛は現末広町の影無し坂で赤衣の仙人に出会い、「近いうちに幸福を与えよう」と告げられます。程なく町奉行より免税と銭500文を、さらに藩主より生涯三人が暮らせる分の米を賜りました。

孝子六兵衛顕彰碑(末広町)

学問や政治において儒教が重視された時代、六兵衛の話は『加越能三州孝子伝』(1794年)、『高岡湯話』(富田徳風著、1807年)等に収録され、徳風は1809年顕彰碑も建てました。現在でも毎年「孝子祭」が行われています。また1935年には市民映画『輝く孝道』も制作されました。(仁ヶ竹主幹)

問合先　博物館 TEL 20−1572

■右のアイコンがついているものは、無料アプリ・カタログポケットで、動画やスライドショーを視聴できます。
動画　スライドショー

このページで紹介できなかった出来事も随時掲載しています。
市HP

青空の下、乗船体験！　7月20日

港の大切さを学ぶための「小学生みなと見学会」が開催されました。参加した太田小学校5年生の児童は、伏木富山港湾事務所の港湾業務艇「なごかぜ」に乗船し、港の役割の説明を受けたり、デッキに出て、海から港を見学したりしました。参加児童は港の話を熱心に聞きつつ、初めての乗船体験を楽しみました。

見て、触れて、光で遊ぶ　7月22日〜9月3日

美術館で、光や音、映像を使った体験型アート展「魔法の美術館 アート・イン・ワンダーランド」が開催されており、多くの家族づれなどで賑わっています。お母さんと訪れていた6歳の大村吏央（おおむらりお）ちゃんは、「台の上に立つと、映像に写る自分に天使の羽が生えたりする作品がおもしろかった」と満足気に話しました。

さあ、新高岡駅から。 VOL.102

わくライナーに乗って、石川県七尾市（観光交流都市）へ出かけませんか

※高岡市と七尾市は広域観光の交流を図るため、お互いの広報紙で観光情報を掲載しています。

高岡・氷見・七尾・和倉温泉をつなぐ特急バス「わくライナー」。新高岡駅から七尾市までは約1時間15分、和倉温泉までは約1時間半で到着します。道中は海岸沿いや山際などを走るため、きれいな景色や町並みも楽しめます。「わくライナー」に乗って七尾市へちょい旅に出かけませんか。

加越能バスHP

◇**国指定重要無形民俗文化財「お熊甲祭（くまかぶとまつり）」**

末社から繰り出した神輿は、猿田彦（さるたひこ）の先導で、高さ20メートルばかりの深紅の大（おお）枠旗（わくばた）や道具を従え、かねや太鼓にあわせて境内に参入・乱舞します。

とき　9月20日㈬ 午前7時〜午後5時

ところ　久麻加夫都阿良加志比古（くまかぶとあらかしひこ）神社（七尾市中島町宮前）ほか

◇**和倉国際女子オープンテニス2023**

北陸唯一の国際大会が七尾市で開催されます。世界の頂点を目指す若手選手が各国から参加し、熱い戦いが繰り広げられます。

とき　予選シングルス 9月24日㈰〜25日㈪
本選シングルス・ダブルス 9月26日㈫〜10月1日㈰

ところ　和倉温泉運動公園テニスコート

問 七尾市交流推進課 TEL 0767−53−8424

七尾市HP